

西海ブロック水産業情報

NO. 68 (平成22年1月～3月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>●2月～3月にかけて、本県で生産したアカアマダイ種苗(48～68mm)2.3万尾を長門市～萩市沖に標識放流した。4～5月に残り0.2万尾を放流予定。</p>	<p>●かき養殖:一部で身入りの遅れがみられたものの、生産量は昨年並み。南部海域では成長が悪く、またへい死が生じたため、収穫量が少なかったが、北・中部海域では順調に推移した。 ●わかめ養殖:リン不足による生育不漁により、生産量は昨年の7割。 ●フトモズク養殖:生育中。 ●ノリ養殖:前年同様、質、量共に良好。1月18日～3月8日まで色落ちが発生し、第8回までの共販結果では、生産枚数・金額とも過去5年平均の7割程度と減少している。また、3月8日頃から網の張り替えにより生産が再開され、4月15日の最終入札には約8.5千万枚が出品される予定。</p>	<p>●シンクロトン光によるケンサキイカ平衡石の分析 ●トリガイ(試験養殖用)種苗生産 平均殻長6～9mmの稚貝を、7月中下旬から、1～1.5ヶ月間、伊万里湾に垂下し、中間育成。 引き続き、コンテナ垂下式による試験養殖を開始し、4月現在まで、成長、生残とも好調を続けている。 ●カサゴ種苗生産は順調に推移。4月下旬に中間育成用種苗10万尾を配布予定。 【水産増養殖関係】 ●アゲマキの囲繞堤を使用した底質改善試験、タイラギ干潟移植試験、放流アゲマキ追跡調査、アゲマキ放流(殻長7～8mm、約94万個)、アサリ・サルボウ生息量調査 ●サルボウ濾水速度試験 ●沖合域におけるモガイ殻 散布耕耘試験 ●冷凍網期は、東・中部地区および南部地区の一部で12月26日に在庫されたが、12月下旬から西部漁場を中心に珪藻赤潮が発生し栄養塩が低下したことから、西部地区と南部地区の残りは、それぞれ1月9日、2月7日に在庫が延期された。 ●12月29日に南部漁場で確認された色落ちは、1月上旬には中部地区で、中旬には東部、西部の沖合漁場まで拡大するなど厳しい生産環境ではあったが、や栄養添加(施肥)やダムからの緊急放流等により、西南部地区の一部を除き、現在も生産が続けられている。 ●冷凍網期の生産状況(3月26日現在)は、生産枚数11.9億枚、生産金額127.0億円、平均単価10.7円となり、枚数、金額共に平成(H5-20)の同時期とほぼ同じ結果である。</p>	<p>●放流魚追跡調査 ・放流トラフグ、ヒラメ、アワビ追跡調査他 ●種苗生産 ・メイタガレイ:12月から有明海沿岸海域で漁獲された天然親魚を用いて採卵試験を実施し、得られた仔魚を用いて種苗生産試験を行った結果、全長25～30mmの稚魚10,500尾を生産した。 ・コウライアカシタビラメ:2月下旬～3月に有明海沿岸海域で漁獲された天然親魚から採卵し、種苗生産試験を実施中である。 ・ホシガレイ:1月上旬に橘湾で漁獲された天然親魚から採卵し、全雌種苗生産技術開発のため、雌性発生試験および雄性ホルモンの経口投与試験を実施中である。 ・タイラギ:種苗生産後の飼育試験、天然種苗の干潟移植後の経過調査を実施した。 ・マガキ(シングルシード):種苗生産後の試験養殖などを継続実施している。</p>	<p>●クルマエビ類の急性ウイルス血症(PAV)の発生が確認されなかった。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>●2月下旬 モクズガニC1, C2 約56,000尾を生産 ●3月下旬 カサゴ種苗 約50,000尾を生産 ●南さつま市笠沙町のフタエモク藻場形成域の水温が2月下旬に17.3℃と上昇し、植食性魚類の出現量が急増した。3月に入るとフタエモクの幼体に食害痕が目立ち始めている。 ●出水市で、アサクサノリの養殖が3年振りに成功した。使用した種付きカキ殻枚数1,500枚、アサクサノリの総生産枚数21千枚。 ●シラスウナギ採捕は過去10年間では平成16年度に次ぐ不漁となっている。</p>	<p>●カサゴ稚魚を毎年標識放流している海域を操業海域としている都農町漁協での平成21年市場調査結果。全調査尾数1,505尾中標識魚尾数は69尾(混入率4.6%)だった。 ●2月、水試で生産したアカモク種系を使用し、県北部海域で延縄式の養殖試験を開始、5～6月の成熟期まで養殖して収穫する予定。 ●3月、県北部海域でウニ除去によるクロメ・ヨレモクモドキ混成藻場の回復実証試験を開始、50×50m範囲のウニの除去を行った。</p>	<p>●1月は、猪串湾でMesodinium rubrum、入津湾でAkashiwo sanguinea、2月は佐伯湾でEutreptiella sp.、猪串湾でCochlodinium polykrikoidesの赤潮が発生したが、いずれも漁業被害は無かった。</p>	<p>●平成20年度の沖縄県産養殖車海老の生産量は562トン、生産額は26億4千万円であった。そのうち、沖縄県車海老組合養成母エビ由来の生産量は373トンと沖縄県産クルマエビの66.4%を占めた。 ●平成22年のオキナワモズク目標生産量は10,00t(もずく養殖業振興協議会)。今年2月の天候不順により、全体的に芽落ちや生長の遅れが見られる。</p>